

CITATION:Gloss D, Vickrey B. Cannabinoids for epilepsy. *Cochrane Database of Systematic Reviews* Cochrane Epilepsy Group, 2014 Issue 3; Update Art. No.: CD009270
DOI: 10.1002/14651858.CD009270.pub3
CRG名:Cochrane Epilepsy Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月:09 September 13
Clib issue No.;N/U: 2014 Issue 3; Update

アブストラクト

背景:マリファナは、動物においては抗てんかん作用を持つことが知られている。てんかん患者においても有効であるか否かは、現時点では不明である。米国の一部の州では、てんかんに対するマリファナの使用が明確に承認されている。

目的:てんかん患者に対して単独療法または追加併用療法として使用した場合のカンナビノイドの有効性及び安全性を評価すること。

検索戦略:Cochrane Epilepsy Group Specialized Register(2013年9月9日)、コクラン・ライブラリ(2013年、第8号)のCochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)、MEDLINE(Ovid版)(2013年9月9日)、ISI Web of Knowledge(2013年9月9日)、CINAHL(EBSCOhost)(2013年9月9日)、およびClinicalTrials.gov(2013年9月9日)を検索した。さらに、検索によって検出されたのではなく著者らが個人的に知っている研究も含め、また、同定された研究の参考文献も検索した。

選択基準:ランダム化比較試験(RCT)。盲検化については問わない。

データ収集と分析:2名のレビューアが独立して組み入れる試験を選択し、データを抽出した。検討した主要アウトカムは、1年以上または最長発作間隔の3倍の期間の発作消失であった。副次的アウトカムは、6か月以上の奏効率、客観的な生活の質に関するデータ、および有害事象とした。

主な結果:患者総数48例の4件のランダム化試験の報告を検出した。これらの試験はいずれもカンナビジオールを治療薬として使用していた。1件の報告は抄録であり、別の1件は寄書であった。すべての研究において抗てんかん薬が継続された。ランダム化の詳細は、いずれの研究報告にも記載されていなかった。参加者の対照群と治療群が同一であるか異なっているかに関する調査はなかった。すべての報告の質は低かった。

4件の報告からは、有害作用に関する副次的アウトカムについてのみ回答が得られた。治療群の患者で有害作用を経験した患者はなかった。

レビューアの結論:てんかん治療薬としてのカンナビノイドの有効性に関して、現時点で信頼性のある結論を導き出すことはできない。少数の患者における概して短期間の200?300 mg/日でのカンナビジオール投与は安全であった。よって、カンナビジオールの長期投与の安全性については信頼性のある評価を行うことができない。

平易な要約(Plain language summary)

てんかんに対するカンナビノイド

てんかんは、突発的な発作を繰り返す疾患です。抗てんかん薬により半数以上の発作をコントロールする日が Care 可能です。その他の患者については、より良好なコントロールを得るために、その他の薬剤の試用を希望している可能性があります。マリファナ、すなわちカンナビノイドもこうした薬剤の1つである可能性があります。本レビューでは、てんかん治療薬としてのマリファナ、すなわちカンナビノイドの有効性を評価しました。てんかん治療薬としてのカンナビノイドの有効性に関して、現時点では信頼性のある結論を導き出すことはできません。さらなる試験が必要とされています。

(監訳 前川 敏彦)

翻訳公開日: 2015年 6月24日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、2013年6月からコクラン・ライブラリーのNew review, Updated reviewとも日単位で更新されています。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、タイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。